

アタカマクロッシングを終えて

佐藤 嘉紘

良く回りから聞かれる質問に『なぜ砂漠に行くのか？』があります。
これに対する明確な答えは出せていません。

自分でも何故？と思う事は良くありますが、行かないと言う選択肢が出た事はありません。

初めて砂漠に行ったのが 2007
年サハラマラソン（モロッコ）
でした。

砂漠はそれこそ映像・写真で幾
らでも見れますが、自分の足で
立った時その空気、景色に圧倒
されました。

百聞は一見にしかず、とは良く
出来た諺で...身を持って体験す
る機会でした。

2009 年サハラレース（エジプ
ト）・2011 年アタカマクロッシ
ング（チリ）と 3 度目の砂漠レ
ースになりましたが

自分の足で立ち、目を見た感動
を味わいたくて挑戦を続けているのかも知れません。



3 度目の砂漠となり装備品の調達、食料の配分など過去の経験を生かし準備は順調でした。
食料の調達も 1 日毎に重量を決め、1 回目に比べ 2k g 近く軽量化しています。

初回は 11k g、今回は 9k g（水抜き）そして、レースも経験を生かし順調に...とは行き
ませんでした。

同じシリーズ戦であるサハラレース（エジプト）を、アタカマに比べるとピクニックだと
表現する人がいましたが、それを納得させられる過酷さでした。

（サハラレースにはまた違った過酷さは当然あるのですが）



まず何より高地での開催。初日に 3400 m、2 日目以降は 2500m 前後
高山病に悩まされる事は幸いありませんでしたが、やはり高地でのレース負担はかなり大きかったようです。
そして気温、昼は 40℃ 以上、夜は 0℃ 近くまで下がる気温差にも悩まされました。最後に足場、観光地でも名の通っているアタカマ塩湖。
ここもコースの一部でしたが、今まで体験した事の無いような足場での走りでした。

塩湖の名の通り、塩が固まって出来ている訳ですが足場が全く安定しない。岩の様に硬い部分もあれば、踏み込むと足首まで埋まる様な場所もあり...目視で見分けも付かず、足を置かなくては判らない、と走りたくとも思うように進められずストレスの溜まるコースで砂漠と言うより荒野に似た様でした。

今回の目標であり、最低限の課題であったのが完走です。

これは 4deserts シリーズにある、3 月のアタカマ (チリ) 5 月のゴビ (中国) 10 月のサハラ (エジプト) この 3 つの内、2 つ完走する事によって参加権が手に入る 12 月の南極マラソン。この参加権が掛かったレースでした。

レースは 7 日間で 250 k m、6 ステージで行われます。各ステージ毎に距離が違い 1 日目 : 35.2 k m 2 日目 : 41.8 k m 3 日目 : 40.0 k m 4 日目 : 42.8 k m 5・6 日目 73.6 k m 7 日目 : 16.0 k m 5 日目と 6 日目はオーバーナイトステージと言い、夜通しレースを行う日になります。ただし、5 日目に頑張りゴールすれば 6 日目は完全休養となる。



まず、気を付けたかったのが過去 2 大会に渡り失敗している、初日に突っ込み過ぎ 2 日目以降体調不良になる事。...結果から言えば 3 度目の失敗をした訳ですが。

初日はどうしても周りの雰囲気呑まれ、全力になってしまいがちになるのでセーブしようとは思っていましたが。

スタート～10k m 地点での位置取りが良く、結局欲を出して全力で突っ込んでしまいました。



待っていたのは 2 日目朝、目が覚めた瞬間に襲われる筋肉痛と体のだるさ。

ここで正直レースとしては諦めました。

2 日目はとにかく無事にゴールに辿り着く事を祈るように歩き、3 日目は順位を一切気にせずに体調維持（あるいは回復）だけを考えたレース展開に。

この段階で 2 日目の失速もあり順位は気にも留めて居なかったのですが、TV スタッフ（今回 NHK の番組制作の為、TV クルーが同行

されました）に現時点で 18 位と教えられ意外な順位に少々驚きました。

他のレースと違いリタイヤする人間も少なく無いので、体調を維持できる人が生き残るサバイバルレースの様相に（参加者 110 人・完走者 87 人でした）

ならば、もう一勝負と 4 日目から順位を気にしつつ、気持はセーブした状態で順位を維持。

4 日目も過ぎると現地の気候にもある程度適応も出来、荷物も軽く（食料が 2k g 程度減っている）なっているので、体調は万全とまでは行きませんが初日より能力を発揮しやすい状況にはなっています。

5 日目は 73k m と距離も長い分時間差が付きやすい。

この日は後半失速覚悟で前半からペースを上げ後続との時間差を稼ぐ、と言うレース計画。最初のチェックポイントで 10 位と良い順位に付け、後はゴールするまでに 15 位前後までで堪え切れれば...であったのですけど。

思いの外後ろが来ない。20k m 過ぎ、40k m 過ぎ、50k m 過ぎて失速し始めても後ろが見えない。自分でもまさかの 10 位のままでのゴールでした。この段階で総合 14 位、自分のレースでの目標として 20 番以内と言うのがあったので、無事達成となりました。

最終日は距離も短く、前後の選手とも 30 分程度の差があるので変動無し。無事完走となりました。無事完走と書くと簡単なのですが、其処までがやはり長かったですね。レース中は 1 日、1 日無事切り抜けられたと言う思いしか無く『今日も生き残れた』が毎日続きます。（帰ってくると辛い部分だけ都合良く忘れ、また砂漠に行きたくなるのですけど）1 週間カロリーと重量だけを気にした食事を取り続け、ゴール地点に用意されたピザとコーラを食べた瞬間の幸福感と言ったら...言葉に出来ませんね。また味わいたい時はまた 250 k m 走る必要があるのですが...

砂漠を走る。

周りから見ると奇異に映るようですが、自分としては既に趣味の一環、人生の目標と切り離せない物になっています。実践すれば、良い結果が出せる人は多々います。

ただ、仕事の都合であったり、資金の都合であったり...実際にやる人は少ないです。

その中で、実際に走り、体験出来ている自分はかなり恵まれているのだと思っています。

（あまり羨ましがられた事はありませんが）この先も『自分自身で体験する』事を増やして行きたいですね。

次の挑戦は 2012 年の南極行きです。

余談ですが...言うまでもなくチリには犬が多いです（初めて来た時は驚きました）が、その中で 4 日目から（アタカマ塩湖でのキャンプサイト）登場した黒い犬。気にもして無かったのですが、5 日目スタート時に選手に着いてくるんですよ。

途中で見えなくなったので諦めたのかと思いましたが、最初のチェックポイント（15 k m）で休憩中...トップグループと一緒に 3 番目で着いた模様。その後も複数の目撃情報があり、次に

見たのが 6 日目、キャンプサイトでした。つまり 74 k m 走ってきた訳で...結局そのまま最終日も付いて来てサンペドロ・アタカマで選手と一緒にピザを食べていました。

チリの犬は皆タフなんですかね。

